

ヒップホップ

ヒップホップ音楽は、DJが独創的に作り上げる様式化されたリズム音楽からなる音楽の1ジャンルである。ポピュラー音楽の打楽器による「ブレイク」(一つの楽器により演奏する部分)の部分抜き出して作るもので、ブレイクを伸ばすために2つのターンテーブル(回転盤)を使うこともある。スクラッチ、ビート・ミックス/マッチング、ビート・ジャグリング(二つの回転盤を交互に混ぜて使う方法)などのターンテーブルリスト(DJ)のテクニックが最終的にブレイクとともに発展した。

ヒップホップ音楽は一般にラップ、つまりリズムに乗って韻を踏んだスピーチを歌うことを伴う。ビート(ほぼいつも4/4拍子)は、他の歌の一部を抽出(サンプリング)し、順番に繋げることによって作ることができる。また、シンセサイザーやドラム類、生バンドも組み入れる。ラッパーは歌詞を書いたり、覚えたり、即興で作ったりして、無伴奏(アカペラ)または打楽器のビートに乗って歌う。

以前はラップのことを指して使われることが多かったが、ヒップホップという言葉はより正式にはそのサブカルチャーの活動全体を意味する。ヒップホップ音楽という用語は、ラップ音楽と同義的に使われることがあるが、ラップすることはヒップホップ音楽に必須の要素ではない。ヒップホップ音楽にヒップホップ文化の他の要素が伴うこともある。

スポーツの倫理的な価値に従うため、アイス・ダンスの競技会で選ばれるヒップホップ音楽は、攻撃的かつ/または不愉快な歌詞を含んではならない。

ヒップホップダンスは、主にヒップホップ音楽で踊られるダンススタイルか、ヒップホップ文化の一部発展したダンススタイルのことを言う。これは、アフリカ系アメリカ人によって1970年代に作られた広範囲のスタイルを含む。ヒップホップダンスをダンスの他の形式と分けるのは、それがたいてい「フリースタイル」(即興)ということである。

35歳以上にヒップホップダンスは広く知られることになった。この即興で踊るスタイルが流行したため、ダンス業界はヒップホップのスタジオ版(ニュースタイルとも呼ばれる)とジャズファンクで応えた。これらのスタイルは、技術的な訓練を受けたダンサーが街中で見たヒップホップダンスを元にヒップホップ音楽に振り付けたいと思って開発された。この開発により、ヒップホップダンスはいまではスタジオでも屋外でも練習することができる。ほとんどのラップ、R&B、ポップミュージックのビデオやコンサートで見られるヒップホップダンスは、このスタジオで行うヒップホップ(ニュースタイルとも呼ばれるもの)である。

技術的な観点では、ヒップホップダンスは柔軟性を要し、分離運動(ある体の部分を他の部分とは独立して動かすことができる)を伴う激しいものとして特徴付けられる。上体を下げ、体は緊張のない状態を保つことで、ダンサーはビートを打つことやビートに乗っていくことを簡単にどちらでも行うことができる。これは上体を姿勢よくして体を固めて踊るバレエやボールルームとは正反対である。加えて、ヒップホップはとてもリズムカルであり、自身の表現や音楽性(動きが音楽に対してどれだけ鋭敏か)、自由なスタイルをできることに重点を置く。ダンサーが基本の動きを維持している限り、彼らは自身の(自由な)スタイルを加えることができ、それでもヒップホップである演技となる。

下記は YouTube で公開されているニュースタイルのヒップホップのTVのダンスパフォーマンスである。これらはダンススタイルと音楽の多くの可能性を示している。

<http://www.youtube.com/watch?v=-o8we0IJptM>

http://www.youtube.com/watch?v=y4xW_aDYtJk